

「第2期第3回環境教育・環境学習推進懇話会」議事録

1 日 時

令和7年6月24日（水） 14:00～15:00

2 場 所

横須賀市役所消防局庁舎3階 消防第3会議室

3 出席者

（1）構成員

桐谷座長、奈良谷構成員、高橋構成員、森構成員、
角田構成員、宮川構成員、遠藤構成員、堀井構成員、淺見構成員（計9名）

（2）事務局（環境部環境政策課）

出雲課長、畔柳課長補佐、山城（3名）

4 傍聴者

なし

5 開 会

（1）会議資料の確認

（2）事務局紹介

（3）構成員紹介

6 報 告

〔報告1〕令和6年度報告および令和7年度事業計画

事務局から、環境教育・環境学習推進事業について令和6年度の実績報告および令和7年度の事業計画を報告し、意見交換を行った。

〔事務局からの説明〕

① 環境教育指導者等派遣事業

指導者の皆様を小中学校や、町内会に派遣して、環境教育の場を提供する事業。令和6年度の実績については資料に記載の通りで、数値については例年から大きな変化はなかった。

昨年度は、新しく2名指導者の登録をしていただいた。

学校向けのPRとして、今年度ラインナップ集を新しくした。またホームページを整備した。横須賀市のホームページに環境教育のページがあるが、そこに学校向けというリンクを作った。ここを見れば先生たちが、横須賀市が提供している環境教育の講座などを、一覧で見られるようにした。

本事業は、学校の先生方の中でも知ってる人は知ってるという状態。紙で各校に配布しても、末端の先生まで行き届かないという声もあり、誰もが見ることのできるホームページで紹介するような形にした。

② 環境ポスターコンクール

市内の小中学生を対象に、環境をテーマにしたポスターを募集している事業。毎年生徒たちの夏休みの課題などに使われている。

入選作品は、巡回展示などを行い啓発としても活用している。

令和6年度の応募数などは資料に記載している通りで、今年度も継続実施する。

③ 教員向け環境学習講座

昨年度の内容は記載の通り。

今年度も継続実施する。

④ 環境体験事業（猿島自然観察会）

令和7年度は猿島への渡航費などの予算が確保できず、猿島での事業の継続とならなかった。そのため今年は猿島には限定せず海洋プラスチックごみ問題などの海をテーマにした講座を開催する予定。

猿島については経営企画部都市戦略課で、横須賀の子供たちが地元の海に親しむ支援として、学校が猿島に行くためのバスの利用料金や、駐車代、猿島のガイドの利用料金を助成する事業を今年度から開始した。

環境政策課としての猿島自然観察会は実施が叶わなかったが、いろいろな部局で子供たちが横須賀の自然に触れ合う機会を企画していきたい。

⑤ 横須賀いいね★エコ活動賞

公募制で市内で環境活動を行っている団体や学校を表彰している。

令和6年度に学校短期の部で受賞した学校の取り組みを動画にまとめた。

小原台小学校と浦郷小学校の活動を去年表彰したが、その取り組みを撮影に行き3

分ぐらいの動画にした。

ホームページにも載せており、活動の参考として学校にもぜひ見ていただきたいと思っている。

浦郷小学校の5年3組が食品ロスやそういった方向で環境問題について調べて活動をし、食品サステナビリティ賞というものを受賞した動画をご覧いただきたい。

(動画を再生)

今ご覧いただいた動画は浦郷小学校の活動で、先生と話しながら動画を作成した。どうして子供たちがこの活動をやったかというきっかけと何をやったか、そして何を得たかという3段階構成にしようと思っていた。子どもたちが自発的にやった点を先生としてはすごく良かったとおっしゃっていた。

我々もこの日(※1)お手伝いに行った。すごく寒い日だったが、子供たちがすごく楽しんでた。楽しいだけではなくてそこから何かを学び取ってくれたという感触があったので、この動画を作って公開するということに至った。

※1 動画内で映っている“追浜エコルシェ”のこと

続いて小原台小学校。これはまた観点が少し違うが、地域の美化、ポイ捨てなどに興味を持って街のごみ拾いなどをしてくれた。

(動画を再生)

小原台小学校がいろいろ調べ学習をしていく中で、海の生き物を守るためには街のごみをなくしていかないといけないという結論に生徒たちの中でなり、最後に街のごみ拾いをして、これからも海の生き物を街から守っていこうという取り組みを1年間かけてしてくれた。

このような形で、エコ活動賞をただ受賞してもらうのではなく、こちらとしてもそれをいろんな人に知ってもらい、また学校の先生たちに対してもこういう一連の流れで環境活動ができるという紹介も兼ねて動画を作成した。

⑥ よこすか環境表彰式

これも毎年やっている事業になるが、先ほど言った環境ポスターコンクールと、いいねエコ活動賞の入選者をこちらの表彰式で表彰している。

今年度も実施予定で、年明け1月31日に今開催予定。

⑦ 6月の環境月間の啓発

先日、今年度の啓発のイベントを開催した。これについては後ほど詳しく報告する。

⑧ 環境教育・環境学習推進懇話会

今年度で第2期が終了となり3期目の開催等について検討していきたいと思っている。

参考として、環境政策課で実施している、廃棄物の減量化資源化事業における環境教育環境学習関連の取り組みについて記載した。

小学校向けのごみ分別等に関する出前授業や、昨年度は食品ロスの啓発として、公立保育園にご協力いただき、公立保育園全園を回って食品ロスの啓発の授業を実施した。

ごみの減量化も環境配慮の取り組みの一つになるので、環境政策課の方で主に担当している廃棄物の分野についても引き継ぎ啓発を進めていきたいと思っている。

■座長

ただいまの事務局からの説明について、ご意見やご質問はあるか。

■事務局

補足をしたい。

2ページ目の⑧環境教育・環境学習推進懇話会について、来年度の実施に向けて検討しているという話を少しした。

これについて今日全て結論を出したいということや、皆さんに何かを決めていただきたいわけではなく、ご意見をいただきたいと思っていることがいくつかある。

この懇話会は令和4年の4月から、前身のネットワーク会議終了に伴ってこの懇話会が始まった。

この懇話会は、市の審議会等の要綱・規則に基づいて実施をされていて、傍聴をとったり、会議録をホームページに上げたりというような形式の会議になっている。

この審議会の要綱の中では、継続ありきではなく、会の存続の必要性を検討しなければならないとされており、来年度からの第3期に向けて考えたい。

記憶に新しいところと言えば、よこすかの環境という冊子を作り替えたときに、皆さんのご意見をいただき、反映させ、横須賀にあったものが作られたというのは実績

だと思っている。

またその他にもご意見をいただき、学校へのアプローチの仕方だったり、ホームページの整備など、みなさんのご意見から生まれた発想で、環境教育の見せ方が進化しているかなと事務局としては思っている部分もある。

ただ一方、主だった議題がない場合は、この会議が皆さまの情報共有の場となってしまうこともある。情報交換は大事とはいえ、審議会に準ずる懇話会という性質上、審議会の設置要綱等を見ると、単なる情報交換の場としては、審議会としては望ましくないと読める。そのため、例えば今後第3期の実施にあたっては、傍聴を取ったり、ホームページに載せたりとった審議会・懇話会という形式ではなく、皆さんでざっくばらんに意見交換ができたりする会議の場、集まれる場というふうに変更していくのも一つの方法ではないかなと事務局は今考えている。

それに対して、皆様からのご意見をいただき、次回第3期の方向性を決めていきたいと思っている。

例えばこの先博物館のリニューアルや、またアイクルを少し変え、環境教育をできるような場を整えるという企画が現在進んでいる。今の事務局としての考え方は、そのような具体的なものに対し、スポット的に皆さんのご意見をいただき、相互に意見を交わしながら何かを作り上げていく場としていければ、議題や形式にとらわれなくていいのかと思う。意見を伺いたいことがあるときに皆さんにお集まりいただき、情報交換するというようなフレキシブルに動ける会議体を目指したいという思いがある。

それに対するご意見等をいただければと思い、補足をした。

■座長

ただいまの事務局からの補足説明、および前段の説明内容について、ご意見やご質問はあるか。

■座長

最初に出たホームページのリニューアルについて、いつから新しいホームページを公開しているのか。

■事務局

4月から公開している。

ホームページのリニューアルと併せて、学校現場には今はまだ1枚のラミネート加工したものにリングをつけて、なくならないような形で学校に配っている。

今後はイントラなどの学校先生向けの電子の方で何か情報発信できないかというのを進めている。聞くところによると今年度中にはそれが叶うという、ありがたいお話もいただいている。環境教育ラインナップを伝える媒体が、今はアナログの紙だが、これを伝える媒体自体も電子化する予定でいる。

■座長

電子化というのは学校が持っているホームページなのか。

■事務局

イントラネットという学校の先生が見るサイトがある。

■座長

先生いかがか。

■堀井構成員

そういうものがある。教育研究所の方で運用している。

■事務局

そこに何とか滑り込みができないかと考えている。

また環境月間などのお知らせも子どもたちにチラシで撒いてもらっていたが、それもマチコミという生徒向けのツールを使えないか、教育委員会にお願いをさせてもらい動いている状況。その前段を整えたところまで来ている。

申し込みも、今まではFAX等紙でもらっていたものを、全て電子申請のサイトを作り、先生が電子で申し込みができて、その後のやり取りもメールでできるような形に整えた。なかなか授業中だとお電話が繋がらなかったりということがあったが、そういったものを迷惑のない範囲で、先生のご要望にお応えできるようにメールがいい方、電話がいい方がいらっしゃると思うので、先生が選べるような形にしている。

■座長

学校現場の方から見ていかがですか。

■森構成員

今年環境教育のところに関わらせていただいているところがあり、お電話であったりメールであったり、こういったホームページであったり、そのときに合わせて対応していただけるので非常にありがたいと思っている。

■高橋構成員

横須賀いいねエコ活動賞で受賞した小学生の活動を2件動画で見たが、やはり学年ということで1年間だが、本当はそこをもっと継続してできるといいなというふうと思う。表彰で終わってしまうと何かもったいないので、そこを継続だとか広げようなことも、その中に少し盛り込めるともっといいのかなと思う。

逆に学校の先生方にお聞きしたいのだが、活動を広げようなことをするには、どんなことをすれば広がっていくのか。特にごみの削減や温暖化対策は、継続実施がすごく大事。だから何かそこへの仕掛けとか方策が少しずつ入ってくるといいなというふうに感じた。

■座長

いかがですか。皆さんから自由にご意見いただきたい。

■高橋構成員

例えば小原台小は確か3年となっていた。3年生が終わったら、4年生も続けていただけると本当に嬉しい。

■座長

例えばごみも拾いました、で終わりではなく、それがちゃんと日常的にできるようになっていくような仕組みになったのかという点に、すごい関心がある。

■事務局

例えば小原台小は3年生だったが、それは3年生の担任の先生が、今年1年間、環境に関して総合の時間に取り組んでいくと決めたところから多分入っていると思う。

確かに継続的な取り組みをしてもらうのは大事だなとももちろん思うが、仕掛け作りというところをそこまでは考えきれていなかったというのは今のご意見をもらって思った。

■事務局

あとは例えばこの小原台小の3年生の先生が、今年も3年生をうけている。

去年の3年生がやったことを先生から伝えたら、自分たちもやりたい！と今年の3年生が言い、また小原台小は3年生が似たようなことをやると報告を受け、協力してもらえませんかという相談が来ている。すごくありがたい。

ただ仕掛けは我々がやっぱりできる範囲とできない範囲っていうのがある。そこは本当に学校現場の先生たちに協力をしていただいて、そういった自助じゃないですけど、先生方の中でどんどん回していただくといいなということが、私達としても望みで

はある。

言っただけであれば協力はもちろん、またやろうねとなるが、教育現場にアプローチをするツールというのが正直少ない。1回うまく回った学校はいいなと思ってもう一度リピートしてくださるっていうのが現状にあるので、どんどん裾野を広げていくしかないのかなというところは感じている。

■高橋構成員

私も温暖化対策地域協議会で、ゼロカーボンのコンテスト等をやっているが、なかなか広がらない。そこに興味のある先生がいらっしゃる学校で、その先生が教えているクラスは団体で申し込むというようなことが起きるが、それが広がらない。

だからその辺のところを広げる方策っていうのが本当は一番大事なのかなという気がしていて今回についてもお話させていただいた。

学校の先生方もいらっしゃるので、その辺のところであまり広がるような方策とか、進め方ができるといいなっていうことで、どうすればいいのかなという悩みも含めてお話させていただいた。

■奈良谷構成員

確かにそこはすごく大事なところである。表彰して終わりになってしまっている部分が多分あるのではないかな。やはり環境なので継続していかなくてはいけない。

■高橋構成員

そういう意味ではホームページを今度立ち上げて、そこにアクセスできるようにしたというのは、そういうところにアクセスできるハードルが低くなって継続していくための一つの第一歩になるという感じはする。

■座長

アーカイブ空間みたいなものがあると思う。過去、どこどこの小学校でこういう取り組みありましたというのが、遡って見ていけるようなもの。紙で配っていると、当然紙がなくなったら終わってしまう。でもホームページであればそういう形ができるのでは。

■事務局

今までは表彰された学校名だけは載せていた。けど、何をやったというのは載せきれていなかったところがあったので、昨年度から載せよう、さらに静止画ではなくて動画にしようっていうことをやってみた。

今後これは継続してやっていくつもりではあって、あとは現場でどんどん使ってくださいという願いをしたいと思います。

■座長

見てもらえるかどうかというのは、やっぱり魅力あるものが中に入っていると、あそこ見に行こうとなるのではないか。例えば他の学校の先生も、このサイトに遊びに行ったら何か参考になるかもしれないというふうに思ってもらえたら、もっとアクセス数とかも増えるのかなという気もする。堀井先生いかがか。

■堀井構成員

動画は面白いと思った。実際子どもたちの動きとか、やっている様子がすごくわかったので、ぜひ溜めていっていただきたいと思う。

先ほどからお話あったように継続感はずごく難しいと思う。総合的な学習の時間だと、いわゆる子どもたちがどう学びを作っていくのか、授業者がどう材料を用意するのかというところから始まってくる。一番継続しやすいのは固定していったりすると、例えば何年生になると必ず環境の授業があるとか、そうなってくると確かに継続はできる。一方で総合的な学習の時間として、学びとして狙っているところと若干ずれてしまう可能性がある。子供たちが探求をしていたり、考えていくための時間であると、初めから環境教育でなければいけないというのは、なかなか決め打ちができないと思う。

そういう意味では一つ可能性として、難しさはあると思うが、例えば理科の学びでは環境というのは継続して、3年生から6年生まで、もっと言うと中学3年生までであるものである。いわゆる横展開ではないが、総合的な学習の時間だけではなく、そういった教科にどう入り込んでいくのかということが、話を聞いていて思ったところ。それを思ったのは動画を見たときに、これって何か理科っぽいなど単純に思った。理科としてもすごく面白いと思ったので、何かそういう発想で繋がっていくといいのではないか。ちょうど今の指導要領もそんなことを、横断的な力なんてことも言っているので、そこら辺が継続という意味ではいいのではないかと個人的な感想だが思った。

■座長

今のご意見を受けて、動画を見ると見た方によっては、いろんな受け止め方もできる、広がる可能性もあると、そんな感じのように聞こえたがいかがか。

■堀井構成員

そう思う。子どもたちの姿を見ていると、こちらもいろいろ想像したり、面白そう

だなんて思って広がると思う。

■座長

ご自由にご発言いただければと思うが角田構成員いかがか。

■角田構成員

私は保育園なので、また違う目線で見させていただいた。やはりお話を聞くよりも動画を見た方が、こういう活動をしてるんだというのはわかりやすいし、保育園だったらどういうことできるかなと思うのと、どういうことだったら子どもは興味を持ってくれるかなということ考えた。

私を与えるというのも一つの手段かもしれないが、今は子どもたちの声でいかに興味を持ってくれるかというところが大事だと思うので、そういう視点で見させていただいた。

■奈良谷構成員

継続的という部分で、縦に継続はなかなか学年で作っているわけで難しい。私も理科とかを少しやっていたが、理科の中でやるというのはいけそうな気がした。

あと関所ではないが、アイクルとかエコミルを見に行くところは多分全校でやっていると。そこに絡めて、小学生にはなるかもしれないが、そこから広げていくというのはいいと思う。そこでターゲットを絞る。必ず4年生はそこを通過していただく。

あと部活動が昔みたいになれば。ある種環境部のようなもの。今はなかなかない。

■堀井構成員

中学校に科学部であるとか、そういうものが以前はあったが、今ほとんどロボット部やロボコンなどそういった方向になってきている。

■座長

そういう現場環境の変化もあるのか。

■高橋構成員

例えばそういう科学部があったら、環境指導者の方を派遣して、一緒に環境について考えるというようなことをすると、継続できるし、登録されてる方の活動の場も広がるような気がした。そういうクラブがなくなってしまったというのは、減ってきているのか。

■堀井構成員

中学校の例でお話すると、科学部を理科の先生が持っているかということ、なかなかそうではない。理科の先生でも例えば若い先生が運動系に行ったりということがあり、科学部を持たれている先生は、理科の専門じゃない方が持っていたりする。

そうするとなかなか一歩、化学的な要素を取り入れたり、環境的な要素を取り入れるという活動になかなか行きづらいということがある。そういった仕組みの問題もあるのかなとは思う。

ただ、理科の先生に話していくと、科学部は持ちたいとは言っているので、タイミングや、学校状況によるというのはある。

■高橋構成員

学校のクラブの地域移管というような動きがある。そうするとその地域移管の中で、その環境指導者の方が、活動の場を持てるというような気もする。

確かに化学クラブの先生が、理科の先生ではなくて悩んでいるという話は聞く。なかなかうまくマッチングしないと。そういうことを含めて、クラブ活動の地域移管で専門の方に入っていただくというのは、そのところをうまく捕まえていけるかもしれない。

■座長

ぜひ検討していきたい。

〔報告2〕 令和7年度 教員向け環境学習講座の実施について

事務局から、令和7年度 教員向け環境学習講座の実施について報告を行った。

〔事務局からの説明〕

今年度は改めて知りたいリサイクルの世界というタイトルで、リサイクルに特化した講座を先生たちに対して開催することにした。

生活に身近なリサイクルというものを入口に、環境問題への関心や意識を深めていただき、実際の授業等の教育活動に生かしていただくことを目的としている。

講師に一般社団法人全国清涼飲料連合会をお招きし、ペットボトルのリサイクルについて講義をしていただいた後に、アイクルの見学を行う予定。

全国清涼飲料連合会については、別紙2-2をご覧ください。今日は時間の関係

で、口頭の説明は省略させていただくが、自動販売機の横に最近オレンジ色の新機能リサイクルボックスという入れづらい回収ボックスが置いていると思うが、そういうリサイクルボックスの普及なども、この連合会がやっていたりする。

また今年度も実際の授業への反映を目的とし、小学校の総合的な学習の時間研究会さんと連携をさせていただき。

■座長

ただいまの事務局からの説明について、ご意見やご質問はあるか。

■事務局

これも少し補足させていただく。

この全清飲の取り組みを紹介してもらった。この団体は先生がどうやって子どもに授業をしたらいいのかというような作りを持っている。学校の先生向けのパワポも持っていて、先生が子どもたちに講義をするための講義みたいなこともできるということを知って面白いなと思い今回呼びした。

先生たちが、これどうやって伝えようかなということを思い悩んでしまうようであれば、その先まで仕掛けとして、用意しているというふうに聞いているので、ぜひたくさん先生に聞いていただきたいなと思っている。

■浅見構成員

補足説明させていただくと、この資料（チラシ）につきましては、教員の先生たちが申し込む際に、リンクを貼ってあって見られるように設定している。なので、どんな内容か気になる先生方はポチッと押すと、これが見られるような設定に本年度させていただいた。

■座長

これはSAFでしたけど今年はこれだということか。去年も出たが、これは先生以外の方の参加も可能か。

■事務局

可能である。事前にご連絡をいただければ席を用意しておく。

■座長

ではぜひ皆さんもいただければと思う。

去年S A Fの講義を聞かせていただいたが面白かった。最新の取り組み状況を非常にわかりやすく説明していただけた。先ほどもあったが、子どもにどう伝えるかっていうような、そういったところも学びの機会に大人としてもなるのかなと思う。

[報告3] 令和7年度 環境月間イベントの実施結果について

事務局から、令和7年度 環境月間イベントの実施結果について報告した。

[事務局からの説明]

令和7年度環境月間イベントの実施結果について報告をする。

毎年6月の環境月間のイベント環境月間に合わせてイベントをしているが、今年度は例年実施していたコースカベイサイドストアーズから会場変更し、横須賀中央にあるモアーズシティでイベントを開催した。

当日の様子をいくつか写真で見たい。

(写真を投影)

2つブースを出した。一つが環境政策課の方でゴミとして捨てる予定だったペットボトルのキャップを使い、マグネット作り、アップサイクルの体験をしてもらった。

もう一つは温対協さんの方で、間伐材を使ったキーホルダー作りの体験をもらった。

子どもたちが頑張ってお絵かきをしたり、飾り付けしたりしていた。かわいいビーズとかを色々用意したのでみんな楽しんでくれていた。

意外と大人の参加者が多く、子どもだけではなく、幅広い層の皆さんに体験してもらえたのかなというイメージ。

毎年ただ作るだけというようなイベントだったが、今年は先ほど皆様のお手元に配らしていただいた小さめの冊子、「海を守ろう 海洋プラスチックごみのお話」という冊子を、体験する子供たちに渡して、まずはこれを読んでからペットボトルキャップでマグネットを作るということをした。

入りとして、海洋プラスチックごみの現状と、どうしたら減らせるのかというところで、街のごみを減らそうというような冊子の内容になっている。街のごみを減らす取り組みとして今日はアップサイクルを体験してみましようっていうような流れで、ペットボトルのキャップを使ったマグネット作りっていうものをやってもらった。

子どもたちに響いているか響いていないか正直わからないところはあるが、いつかふと思い返したときに、モアーズでこんなことやったなっていうことが、ちょっとでも頭の中に残っていて、それが環境とか、そういったことに意識を向けるきっかけになったらいいなという思いで行った。こういうイベントは来年も継続してやっていけたらと思っている。

■座長

ただいまの事務局からの説明について、ご意見やご質問はあるか。

■事務局

宣伝にはなるが、冊子の1ページ目をめくるとパッカー車の絵が出ている。プラスチックごみが海に流れましたというのが、実は動画で持っている。1・2・3・4という数字のカウントがあった後に、パッカー車が1tのごみを吐き出しているという衝撃的な映像がある。小学校で環境教育で海ごみの話をしに行くときは、それをまず見てもらっている、インパクトは与えたいと思っている。

これがどういうことかというのは、その後自分で考えてもらいたいと思っている。1tという量のごみが、しかも4秒の間に海に流れ続けている。今こうしている4秒もこれからの4秒も、24時間を4秒だったら何回これが繰り返されているかということ、自分で想像してもらいたい。そういったことをこれからも伝えていきたい。

やはり動画はさっきもいろいろお話いただいたが、大人の私達が見てもすごくインパクトが強い。かながわ海岸美化財団の映像を見たときに衝撃を受けて、交渉をして、うちは自由に使っていていいとなった。それを皆さんに伝えていくというところで、何か機会があれば呼んでいただいたり披露させていただきたいと思っている。

■座長

当日行かれた方はいるか。

■高橋構成員

温暖化対策地域協議会の方で伺った。パネルを用意させていただいて、一緒に活動させていただいた。

ただ単に作るだけでなくこういう冊子を渡したり、地域協議会の方でもペーパーを2, 3用意して、お絵かきをするときには親御さんに渡して、対策が大切ですよというようなことをお話させていただいた。少しでも響いてくれたら嬉しい。

■座長

私も少し覗いてみたが、大人も無心になって作業をやっているよかったです。ちょうどスペース的にもいい感じの収まりだった。

宮川構成員いかがか。河川などをご担当されていると思うが、今回の例えば、海洋プラスチックごみの話などについていかがか。

■宮川構成員

動画というのはやはりいいと思った。

プラスチックごみの話とは違うのだが、私の課でやっている学校での出前授業で、毎年私が年度末にどの学校で何をやったかというのを全部ホームページ載せている。

しかしながら、多分学校の先生は忙しくて見ていないと思う。なので新年度になって、申し込みがあった学校に授業を説明するときに、何回も同じような説明をする。去年この学校ではこういうことをしたという説明をする。

また連続してお申し込みいただく学校があるのだが、そういった学校にもホームページを印刷して、去年こういうことをやりましたよというような形でお見せをしている。他の学年がやっていたことは、先生は忙しいから知らないことも多らしく、去年の3年生こういうことやっていたんですか、という反応だったりする。やはりただホームページに継続して載せているだけでは、なかなか見てもらえないのかなと思ったので、こういった動画とかはいいのかなと思う。

こういったインパクトのあるものは結構ショックも受けると思うので、そういった方向でやっていくとすごくいいのかなと思った。

■遠藤構成員

継続していくという方法は確かに難しいと思っている。学校の場合はカリキュラムがあり、環境教育・環境学習に時間をかけすぎてカリキュラム自体に遅れなどの影響が出てはいけないという制約もある中で、継続はたしかに難しいのかなと思う。

逆に社会教育は、学校教育までかっちりとしたプラットフォームがあるわけではなく、いろいろな年齢の人が集まって自分たちの学びたいことをやる中で、こういう環境系の講座も、毎年ではないがある。

そこからうまくいけば、その中でもうちょっと学びたいという人たちが集まって、それで継続していくというパターンが環境教育だけでなくでも起こりうる。ただそれも強制ではなくて、そこに集まっている人によるというところではある。

子どもたちも仮にそこからもっと学びたいなら、こういうところがあるとか、地域でこういう活動をしているところがある、というところにどうやって繋げるか、繋げることができればいいのではないか。

学校で学んで楽しかった、もうちょっと学びたいなと思っているのではないかと思うが、その先に何かあるかをどうやって教えてあげればいいのか。道をつけるような方法が何かあれば1人でも2人でも継続してできるのではないかと思う。

ただ具体的な方策というのは、思い浮かんでいない。社会教育全般もそうだが、自主的に活動していく方々が生まれてくるといいなと思いつつも、なかなか継続するという点では思わしくなく課題でもある。

強制でも当然いけませんし、何かをきっかけに興味を持っていただけるものがあれば、そこから導いて繋げる。それが一番難しいところである。必要なことだが難しい。

■座長

貴重なご意見である。すごく大事なことだと思う。詳細は省くが、私は小さい頃に自分が興味を持ったことに、ある大人の方が関わって、何か一歩踏み出せたときにすごくブレイクスルーした。自分の中で成功体験になる。

今この年になってもまだ残っている。そういう機会を子どもたちに、小さいお子さんにできるだけ多く提供できるような、何かそういったものができたらすごくいいなと今聞いていて思った。

確かにどうしたらいいっていうところは、すぐに答えを言えないが、でもそこは例えばこういうメンバーで議論してみるというのもいいかもしれないし、大事なことがなと聞いていて思った。

■遠藤構成員

もう一つ追加で、こういう環境教育・環境学習に関する機会や情報を届ける対象を考えたときに、割と届きにくい、こういった活動に参加しにくい事情の人もいるというのも課題なのかなと思っている。

例えば引きこもってしまっていたりとか、家庭のご事情や障害を持っていたりなど。こういう事業の想定は、普通の方と簡単に言ってしまうのはよくないが、そこを想定してしまっている。届けられない、漏れてしまっている人が常にいるというのが課題である。

カバーするのは難しいが、そういう方たちがいる、その人たちに対して何ができる

かという部分は考えなくてはいけないと思う。

■座長

貴重なご意見だと思う。ぜひ次回以降参考にしていただきたい。

7 事務連絡

■事務局

以下の3点について事務局から連絡

(1) 環境教育指導者情報交換会について

この後の情報交換会で皆さんの情報共有の場を設けるのでご発言いただきたい。

(2) 議事録について

議事録を作成次第送る。内容のご確認と、今日の報告に関する追加のご意見があればメール等でいただきたい。

8 閉会

■委員長

それでは、第2期第3回環境教育・環境学習推進懇話会を終了する。